

じぶんまくら、ブランドを活かしたオーダーメイド型羽毛布団の仕立て直し
サービス開発事業

株式会社じぶんまくら

羽毛布団の仕立て直しを事業化したことで、 雇用問題を解決しSDGsも推進

ショッピングモール中心に出店



毛玉のようになった羽毛

練る中で、課題となったのが閑散期対策。寝具の小売りは、9月から12月が繁忙期。1月になるとピークを脱し、春から夏の期間は閑散期となる。夏場と冬場で大きな差が出る工場の稼働率是正が求められていた。

じぶんまくらは、老舗寝具小売店であるタナカふとんサービスのグループ企業で、布団や枕といった寝具の製造を担ってきた。百貨店や大規模小売り店舗との間で競争が激化する中、自社工場の設置やオリジナル製品の開発などで事業を拡大してきた。平成19年に発売した「じぶんまくら」が、枕のオーダーメイドといった新規性で顧客に受けてヒットし、愛用者100万人を超えるブランド製品に成長した。現在グループでは、じぶんまくらを前面に押し出した店舗戦略を展開し、ショッピングモールを中心に年間10店舗以上の出店を続けている。このブランドをテコに、さらなる成長戦略を

羽毛布団の仕立て直し

閑散期対策として目を付けたのが、羽毛布団の仕立て直し。羽毛は貴重な天然素材でありながら、買い替え時に廃棄されるケースがほとんどという。しかし、綿布団が主流だった頃には、経年使用によってつぶれた中綿をほぐし、さらに新たな綿を追加してカバーも替えて新品同様に仕立て直す「打ち直し」はふとん店の看板事業だった。同様のサービスを羽毛布団で展開できれば、閑散期の事業の柱になるうえ、貴重な資源も有効活用できる。また、同社では、羽毛布団の製造に必要な技術と設備を保有しており、これらを活用することで「羽毛布団の仕立て直し」事業に乗り出すことにした。自社で手がかければ、顧客からの細かい要望を反映したオーダーメイドの仕立て直しサービスを展開できるうえ、じぶんまくら同様に新たな強みにもなると判断した。



羽毛を残さず回収するため装置底部を改良

専用工場に設備一式を導入

新規事業として手がける羽毛布団の仕立て直しは、羽毛布団1枚ごとに解体、羽毛の洗浄、乾燥、冷却除塵し布団生地への吹き込み、検針の工程を経て顧客の手元に戻される。事業専用工場を確保し、まず導入したのが羽毛洗浄機。次いで、洗浄工程の前後の機械装置一式を「平成30年度補正ものづくり・商業・サービス生産性向上促進補助金」を活用



洗浄した羽毛を乾燥と同時に熱消毒する乾燥機

して導入。設備導入当初、解体工程で装置底部の隅に羽毛が残る問題が起こった。残った羽毛が次の顧客のものと混ざらないようにするため、箱形だった装置の底に傾斜を設け、羽毛が底の一カ所に集まるように改良。残さず洗浄工程への移送が可能となった。また、顧客からの要望を店舗から確実に工場へ伝達する依頼書も新たに設計した。この結果、最短2週間で顧客の手元に納入できる体制を整備。こうした試行錯誤の結果、令和2年にサービスをスタートさせた。

社会貢献事業に発展

川瀬宏彦工場長は「夏場になると、することがない時もあった」と打ち明ける。しかし、仕立て直し事業を始めたことで夏場でも早朝から夕方まで、生産ラインは休む間もないほどだという。これにより、従業員だけでなく受け入れている技能実習生も通年で技術・技能を身につけられる環境が整った。

新規事業が生まれた背景には、羽毛価格の高騰も理由のひとつ。羽毛は産地が消費地化したのとアパレル製品での需要拡大で品薄状態が続いている。限られた資源の有効活用はSDGsの「持続可能な消費と生産」を達成するには欠かせない取り組みで、企業の成長も左右する。「仕立て直しを手がけたことで、羽毛布団の修理といった相談も舞い込むようになった」（川瀬工場長）と思わぬ効果も出てきた。仕立て直し事業は、資源保護にもつながっている。



洗浄、乾燥した羽毛の吹き込み作業

企業データ

企業名	株式会社じぶんまくら
代表者役職名・氏名	代表取締役 田中公雄
設立年月日	平成6年8月1日
住 所	本社 〒491-0858 愛知県一宮市栄三丁目8番7号 工場 〒491-0046 愛知県一宮市天王二丁目2番2号
URL	https://jibunmakura.com/factory/
資本金	4500万円
業 種	繊維工業(寝具の企画製造・販売)
従業員数	13人



羽毛は貴重な資源と語る
川瀬宏彦工場長